



日本ワクチン学会 ニューズレター

vol.13

目 次

- 1.第11回日本ワクチン学会学術集会会長挨拶 倉田 毅 2

- 2.ワクチン関連トピックス
 - 1) トピックス I 『2007年4月、東京都、埼玉県を中心に
南関東地域で麻疹流行』 2
 - 2) トピックス II 『第二期麻疹風疹ワクチン接種率の低迷』 3
 - 3) トピックス III 『2007/08 インフルエンザシーズン（北半球の冬）に
推奨されるワクチン株』 4

- 3.第11回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第3報）
第11回学術集会会長 倉田 毅 4

- 4.第12回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第1報）
第12回学術集会会長 岡 徹也 4

- 5.会員会告
 - 1) 2007年度第1回理事会議事録（2007年3月25日） 5
 - 2) 2007年度第1回Vaccine誌編集委員会委員会議事録（2007年3月25日） 6

§ 第11回日本ワクチン学会学術集会会長挨拶

平成19年5月
第11回日本ワクチン学会会長
倉田 毅
富山県衛生研究所長
(前国立感染症研究所長)

第11回日本ワクチン学会学術集会を2007年12月8日(土)～9日(日)の2日間、横浜市のパシフィコ横浜で開催いたします。

プログラム内容の主たる点については次のとおり予定しております。

特別講演(8日)として脇田博士(国立感染症研究所)に「C型肝炎のワクチン開発(仮題)」をご講演いただく予定です。シンポジウムは1題で麻疹・風疹ワクチンが使用されはじめて30年にちなんで「はしか・風疹ワクチン30年(仮題)」を予定しております。パネルディスカッションとして、昨年も大変好評であった「ワクチンの

抱える諸問題(2)(仮題)」を予定しております。ワクチンの有効性、副作用、副反応について承認審査、臨床、実験室、あるいは国際比較の点からみてどうとらえられるか、それらの確認に何が必要か、等々について議論を深めていただきたいと思っております。またランチョンセミナーは8、9日の昼に各1題ずつ予定しております。8日夕方には情報交換会をもうける予定です。

ぜひ多数の方々に参加していただきたいと思っております。学術集会へのご参加のほどをよろしくお願い申し上げます。

§ ワクチン関連トピックス

トピックス I

2007年4月、東京都、埼玉県を中心に南関東地域で麻疹流行

～IDWR 2007年第13号 <http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/idwr/idwr2007/idwr2007-13.pdf>より抜粋～

感染症発生動向調査によると、2007年第13週の小児科定点からの麻疹の報告数は26(定点当たり報告数0.01)であり、2006年第36週以降の最高値となった。特に埼玉県11例、東京都9例、千葉県、神奈川県各1例であり、南関東地域のこれら4都県で計22例の報告となり、同地域における麻疹の流行は更に進行している可能性が高いと思われる。2006年第36週以降の累積患者報告数は253例であり、年齢別では10～14歳の割合が21.3%と最も多く、1歳児(18.2%)、0歳児(16.6%)を上回っており、2005年までと比較して年長者の報告割合が増加している。基幹定点からの成人麻疹の報告数は、第13週は11例と第12週(9例)よりも更に増加しているが、その

うち8例は東京都からの報告である。成人麻疹は2006年第36週から現在までに54例の報告があるが、そのうち29例が2007年第11週からの3週間の報告であり、その多くが東京都を中心とした南関東地域の4都県からである。

現在東京都や埼玉県を中心とした南関東地域では麻疹が流行しており、入学式、始業式等の学校、幼稚園、保育園行事の実施に伴って、今後流行は更に拡大する可能性が高い。

麻疹は国内からの排除(elimination)を目標とすべき疾患であり、そのためには地域的な流行は積極的に阻止されなければならない。麻疹の流行を阻止するためには、1歳になったらすぐと学童期前の2回目接種を含めた麻疹関連ワ

クチンのより積極的な勧奨が必要であると共に、1例でも発生すればすぐに対応を講じる等の対策が重要である。また今後、麻しん発症者の医療

機関受診の増加に伴い、院内感染事例の増加も危惧されるところであり、医療機関における適切な準備と迅速な対応が望まれる。

トピックスⅡ

第二期麻疹風疹ワクチン接種率の低迷

～2006年度第2期麻疹・風疹ワクチン接種に関する全国調査

—2006年10月1日現在中間評価—(IASR Vol.28 p 85-86：2007年3月号)

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/28/325/pr3252.html> より抜粋～

2006年4月1日施行の予防接種に関する政省令の一部改正により麻疹風疹混合ワクチン（以下、MRワクチン）を用いた定期接種が可能となり、同年6月2日から、わが国においてもようやく麻疹および風疹ワクチンの2回接種が定期接種に導入、開始された。接種対象者は、第1期が1歳児、第2期が5歳以上7歳未満で小学校就学前の1年間にあたるものとされた。しかし一方で、2回接種法開始の初年度であるということ、年度内の数回にわたる予防接種に関する政省令の一部改正に伴い、医療や行政の現場において混乱が生じている可能性があることなどから、第2期の接種率の低迷が予想された。

2006年10月1日現在の第2期対象者における麻疹を含むワクチンの接種率〔(第2期MRワクチン接種者数+第2期麻疹単抗原ワクチン接種者数) / 2007年度小学校入学予定人口〕は29.4%、同様に風疹を含むワクチンの接種率〔(第2期MRワクチン接種者数+第2期風疹単抗原ワクチン接種者数) / 2007年度小学校入学予定人口〕は29.9%であった。接種したワクチンの種類を見ると、麻疹を含むワクチン接種者数のうち、MRワクチンが99.6%、麻疹単抗原ワクチンが0.4%、風疹を含むワクチン接種者のうち、MRワクチンが97.8%、風疹単抗原ワクチンが2.2%を占めていた。2006年10月1日現在の都道府県別の接種率を第2期MRワクチン接種率が高い順にみると、最も高かったのは徳島県（第2期MRワクチン接種率：42.2%）で、最も低かったのは沖縄県（第2期MRワクチン接種率：12.1%）であった。

2006年10月1日までに対象者に何らかの「お知らせ」をした市町村（特別区）は1,398（95.4%）、

しなかった市町村は68（4.6%）であった。周知したと回答のあった市町村（特別区）における麻疹を含むワクチンの第2期接種率は29.8%、風疹を含むワクチンの第2期接種率は30.3%であったのに対し、周知をしなかったと回答した市町村（特別区）における麻疹を含むワクチンの第2期接種率は13.6%、風疹を含むワクチンの第2期接種率は14.7%であった。周知方法として、83.2%の市町村（特別区）が個別通知を行っていた。

以上の結果から、2006年10月1日現在の第2期麻疹・風疹ワクチンの接種率は全国的に非常に低く、2回接種開始初年度の接種率は、積極的な接種勧奨を実施しなければ、低いまま次年度を迎えることが懸念された。2007年3月31日までに、全国的な接種率向上に向けたさらなる取り組みが必要と考えられる。医療従事者や保護者への接種制度の改正に関する情報提供はもちろんのこと、2回接種の必要性に関する知識の普及も「小学校入学前には麻疹と風疹の予防接種を受けに行く」という行動を促す上で、非常に重要であると考えられる。さらに、接種率向上に向けた周知方法の再検討と2007年3月31日までにできる限り一人ひとりに情報が届くようなきめ細やかな対応、およびそれを可能にする予算ならびに接種体制の確保が必要と考える。

最後に、本調査にご協力いただいた市町村（特別区）の関係者の皆様にお礼を申し上げますとともに、2007年5月に予定している最終評価のための調査にも是非ご協力いただければ幸甚である。

トピックスⅢ

2007/08インフルエンザシーズン（北半球の冬）に推奨されるワクチン株

(IASR Vol.28 p 121-121：2007年4月号

<http://idsc.nih.gov/iasr/28/326/inx326-j.html>より抜粋)

A/Solomon Islands/3/2006 (H1N1) 類似株

A/Wisconsin/67/2005 (H3N2) 類似株*

B/Malaysia/2506/2004類似株

*A/Wisconsin/67/2005 (H3N2) およびA/Hiroshima (広島) /52/2005

(WHO, WER, 82, No.9, 69-74, 2007より)

§ 第11回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第3報）

第11回日本ワクチン学会学術集会を、平成19年12月8日（土）、9日（日）の2日間、パシフィコ横浜にて開催することとなりました。シンポジウム、特別講演等を企画していますが、一般演題が充実していないと魅力あるワクチン学会にはならないと考えております。是非、多くの方々のご参加と、演題発表をお願い申し上げます。

会 長：倉田 毅（富山県衛生研究所（国立感染症研究所））

会 期：2007年12月8日（土）～9日（日）

会 場：パシフィコ横浜

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1

TEL：045-221-2155

事務局：〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1

国立感染症研究所感染病理部長 佐多 徹太郎

TEL：03-5285-1111 FAX: 03-5285-1189

E-mail: vaccine2007@nih.go.jp

§ 第12回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第1報）

第12回日本ワクチン学会学術集会を、平成20年11月8日（土）、9日（日）の2日間、熊本市民会館にて開催することとなりました。

是非、多くの方々のご参加と、演題発表をお願い申し上げます。尚、大会連絡先等の詳細につきましては決まり次第お伝えいたします。

会 長：岡 徹也（財団法人化学及血清療法研究所）

会 期：2008年11月8日（土）～9日（日）

会 場：熊本市民会館

〒860-0805 熊本県熊本市桜町1番3号

TEL：096-355-5235

FAX：096-355-5239

§ 2007年度 第1回 日本ワクチン学会 理事会議事録

日 時：2007年3月25日（日）11：00～13：00

場 所：国立感染症研究所 共用第二会議室

出席者：山西弘一（理事長）、浅野喜造（副理事長）、上田重晴、大隈邦夫、奥野良信、岡 徹也（次期会長）、神谷 齊、喜田 宏、高見沢昭久、谷口清州、中山哲夫、堀井俊宏 各理事、
倉田 毅 監事
石戸谷 晃子、中川庸幸（（株）春恒社）

欠席者：庵原俊昭、加藤達夫、城野洋一郎、田代真人、荒川宜親、多屋馨子、各理事、清野 宏 監事

報告事項

1. 前回議事録の確認

山西理事長より報告があり、承認された。

2. 一般経過報告

山西理事長より2007年2月28日現在の会員数の現況を含む一般経過報告がなされた。

3. 平成18年度決算報告

高見沢財務担当理事から報告がなされ承認された。

事務局より、朝倉書店から発行された「ワクチンの事典」の印税（学会への寄付分）について300部の印税32万4千円が3月26日に入金予定であることが報告された。また、山西理事長から学会へ第10回ワクチン学会学術集会の余剰金100万円を寄付する予定であることの報告があった。

4. 平成18年度会計監査報告

倉田監事から平成18年度会計監査報告がなされた。

5. 第11回日本ワクチン学会学術集会報告

倉田会長から、事前登録は行わない等の報告がなされた。

6. 第12回日本ワクチン学会学術集会報告

岡次期会長から報告がされた。

一部の方に報告していた日程は、ウイルス学会と日程が重複しているため小児感染症学会とも調整の結果、会期を2008年11月8日（土）～9日（日）とし、会場は熊本市市民会館を予定していると報告があった。

7. Vaccine誌編集委員会報告

事務局から第2回Vaccine誌編集委員会の議事録の内容の報告があった。山西理事長より理事会に先立って行なわれたVaccine誌編集委員会の内容について報告がされた。また、次回編集委員会は6月に開催予定との報告があった。

8. ニュースレター・ホームページについて

事務局から次回のニュースレターの発行・目次（案）およびホームページの更新状況について報告がなされ、ホームページに掲載されている「日本発のワクチン開発をめざして」と題して2月に開催されたシンポジウムについて山西理事長より説明があった。

9. 高橋賞について

事務局より高橋賞の応募状況が報告された。また、応募期間を1ヶ月繰り下げ、締切りを4月30日までとすることが確認された。

審議事項

1. 理事選挙管理委員の選出

本年は理事改選年度であり、現理事の中から、谷口、中山両理事が理事選挙管理委員に選出され

た。

山西理事長から理事選挙実施要領（案）が示され、承認された。

2. 会員名簿作成について

本年は名簿作成年度であるため山西理事長から会員データ調査について（案）と名簿調査票（案）が示され、承認された。

3. 高橋賞選考委員会委員について

事務局から竹田委員が選考委員を辞任されたことが報告され、承認された。委員に欠員がでてしまうため竹田委員の後任として京都大学の光山正雄先生が推薦され、理事長より委員の就任依頼をすることとなった。

4. 多年度会費滞納者の退会処分について

3年以上会費滞納者（16名）の一覧が配布され、退会手続きを行うことが承認された。

なお、同対象者には、昨年12月に会費請求書をお送りし12月末までに納入いただけない場合には、理事会の議を経て、退会される旨を通知している。

5. 次々期会長の選出について

地域性・専門分野を考慮し喜田 宏理事（北海道大学）を理事会から第13回会長として第11回総会へ諮ることとなった。以上

平成19年3月25日（日）

日本ワクチン学会

理事長 山西弘一

§ 2007年度第1回 日本ワクチン学会 Vaccine誌 編集委員会 議事録

日 時：2007年3月25日（日） 10時00分～11時00分

場 所：国立感染症研究所 共用第二会議室

出席者：【委員長】岡部 信彦

【委 員】浅野 喜造，奥野 良信，熊谷 卓司，中山 哲夫

【アドバイザー】谷口 清州 【アドバイザー】山西 弘一

【事務局】石戸谷 晃子，中川 庸幸（(株) 春恒社）

欠席者：【委 員】荒川 宜親，田代 真人

【アドバイザー】清野 宏，多屋 馨子 【出版社】海老原 実 エルゼビア・ジャパン（株）

1. 前回議事録の確認

岡部委員長から前回議事録の報告がなされ、承認された。

2. Vaccine誌への掲載原稿の進捗状況について

Vaccine誌への掲載原稿の進捗状況と今後の原稿依頼予定について確認がなされた。

1) 原稿の進捗状況について

・日本ワクチン学会設立の経緯について

Vaccine誌へ原稿を掲載するにあたり大谷先生には是非日本ワクチン学会設立の経緯について執筆していただく必要があるということが再確認され、委員長より原稿依頼をすることとなった。

・第11回学術集会のアナウンス

学術集会のアナウンスを今年度会長の倉田先生へ依頼することが再確認された。

・第9回シンポジウムの原稿

委員長より手元へ原稿が届いていることが報告された。協議の結果、原稿を委員全員で査読することとなったが、客観的視点も要する為、非会員の方へも査読依頼をすることとなり、熊谷委員から山口大学の市原先生が推薦され、査読を依頼することとなった。

・IASRの英語版について

委員長よりIASRのVaccine誌への掲載については掲載元の国立感染症研究所感染症情報センターより「転載であれば問題はない。是非Vaccine誌掲載に利用していただきたい」とのことであったと報告があった。協議の結果IASRのワクチン関連の英語版6点（ジフテリア、インフルエンザ、結核、B型肺炎、麻疹・風疹、コレラ）を掲載することとなった。

・医事新報社の原稿の英訳について

掲載予定として、原稿を受領した。また、Vaccine誌掲載にあたって掲載可否について掲載元の医事新報社へ確認することとなった。

上記協議の結果、今年度掲載予定の原稿については以下の通りと確認がされた。

- ① 日本ワクチン学会設立の経緯について
- ② 第11回学術集会のアナウンス
- ③ 第9回学術集会シンポジウムのまとめ
- ④ IASRのワクチン関連の英語版6点（ジフテリア、インフルエンザ、結核、B型肺炎、麻疹・風疹、コレラ）について
- ⑤ 医事新報社の原稿の英訳

2) 次年度の掲載について

次年度の掲載について協議がなされた。

高橋賞設立の経緯、第1回高橋賞受賞者の受賞研究の総説については今年度中に原稿依頼をし、次年度掲載に向けて準備をしていただくこととなった。

また、学術集会においてシンポジウムおよび演題にVaccine誌掲載に値するものがあれば、会長推薦により第11回シンポジウムのまとめや優秀演題などとして原稿依頼することとなった。

他、次期学術集会アナウンス、IASR英語版レビューについて次年度も掲載することとなった。

上記協議の結果、以下の内容を予定とし原稿依頼をすることが確認された。

- ① 高橋賞設立の経緯について
- ② 第1回高橋賞受賞者の受賞研究についての総説
- ③ 第11回シンポジウムのまとめ
- ④ 第12回学術集会のアナウンス
- ⑤ IASR英語版レビュー

3. その他

今回のVaccine誌編集委員会は6月2日～3日富山国際会議場にて開催される日本臨床ウイルス学会の会期中に行うことが確認された。

以上

2007年3月25日
委員長 岡部 信彦

日本ワクチン学会ニュースレター 第13号

2007年5月20日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局

〒567-0085 茨城市彩都あさぎ7-6-8 (独) 医薬基盤研究所
日本ワクチン学会理事長 山西 弘一

<http://www.jsvac.jp/>

<学会連絡先・入退会・住所変更・年会費>

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519 洛陽ビル3階
(株) 春恒社 学会事務部内

日本ワクチン学会係

TEL : 03-5291-6231/FAX : 03-5291-2176/ E-mail : jsvac@shunkosha.com
